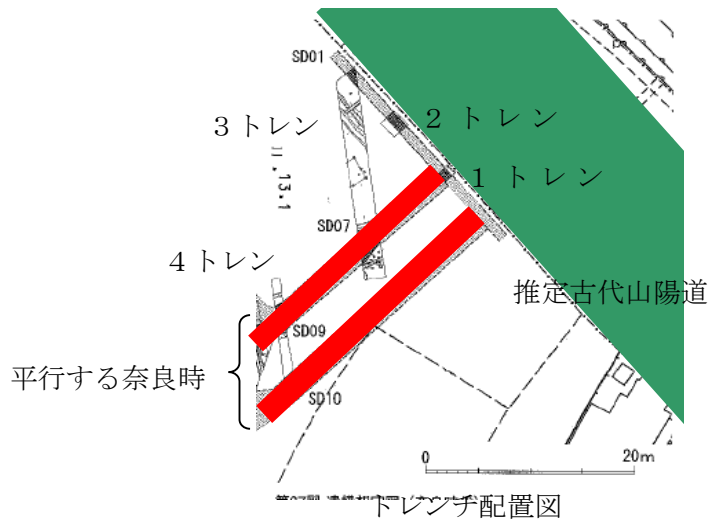
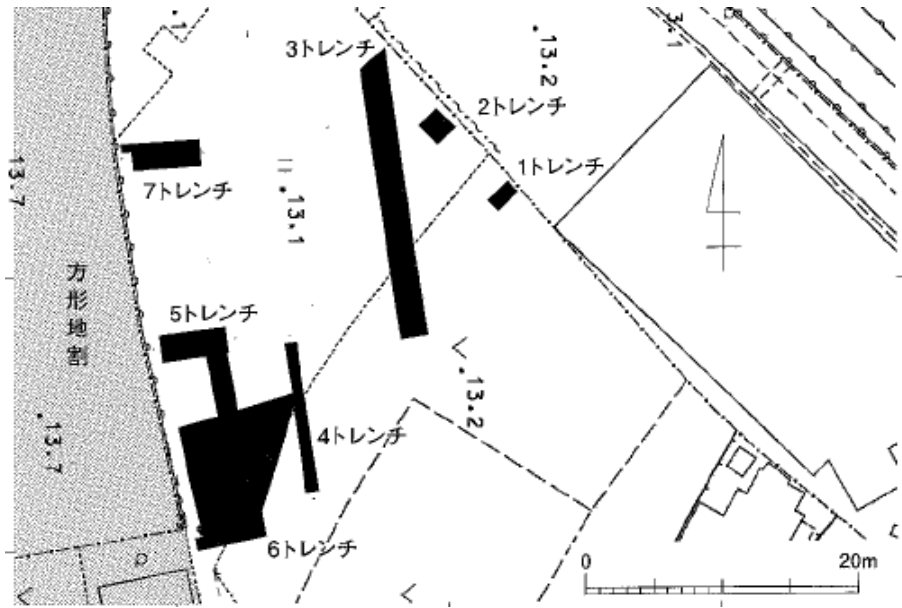


「賀古駅家、発掘ものがたり」 11 <新発見の溝>



浅くて広い奈良時代の溝 (SD07)

推定古代山陽道と駅家の間に、新たに4トレンチを追加しました。すると、3トレンチで見つかった奈良時代の溝（SD07）の続き（SD09）が見つかりました。どうやらこの溝も駅家に向かって、まっすぐ延びているようです。しかも、駅家と同じ時代の溝です。

「なんで、こんなところに溝が・・・」

駅家の復元図をイメージしても、溝の意味がわかりません。あるいは、築地塀（ついでい）の雨落ち溝に溜まった水を排水するためのものでしょうか・・・。

さらに、溝（SD09）の南側約3mのところ、それに平行する溝（SD10）も見つかりました。時期も同じ頃のようにです。

この二本の溝は駅家と同じ奈良時代のものであり、さらに推定古代山陽道とおおよそ90°で交わっていることがわかってきました。何らかの計画性をもって掘られた溝のようです。

平行する二本の溝は古代山陽道や賀古駅家とどのような関係にあるのか？

新たな事実直面し、頭の中でワクワクとモヤモヤが交錯します。それを解決する答えは、やはり地中にしかありません。その解決を求めて、溝の延長に新たなトレンチを設定したのでした。

兵庫県立考古博物館 学芸員 中村 弘